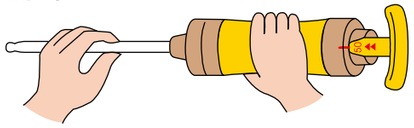
気体採取器の 使用方法

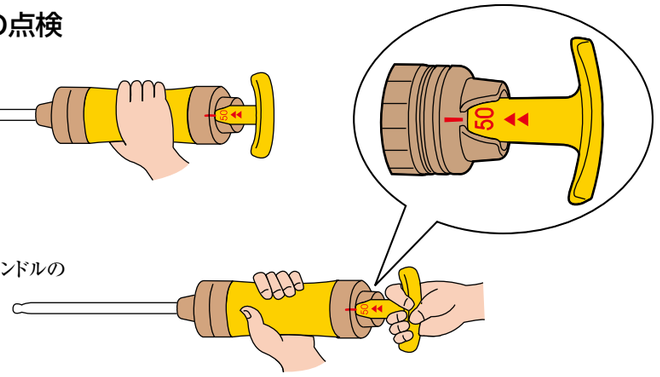
1 始業前の点検　気体採取器の気密性の点検

※気体採取器は下に向けて操作してください。

❶ 両端を折り取っていない検知管を検知管取付口に差し込みます。



❷ ハンドルを完全に押し込み、ガイドマーク（赤線）とハンドルのガイドマーク「50▲▲」を合わせます。



❸ ガイドラインに沿ってハンドルを一気に最後まで引きます。
固定されますのでハンドルから手を放し、約30秒待ちます。

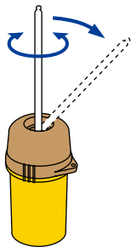
❹ ハンドルに指を掛けながら90度回します。

※ハンドルを戻す時は、必ず指をかけしっかりと握ったまま戻してください。
ハンドルから手を放すと急激に戻り、気体採取器の破損やけがの恐れがあります。
ハンドルが最初の位置（❷の状態）付近に戻れば、気密性は良好です。
※ハンドルが最初の位置まで戻らず、5mm以上も離れるときは漏れがあり、誤った測定値を生じますので"保守"に従って処置をしてください。（保守は右下を参照）

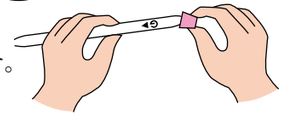
2 測定

❶ 図のようにチップホルダ上部のくぼみに検知管の先端を入れ、検知管を回転させてチップホルダに内蔵されているヤスリによりきずを付けます。

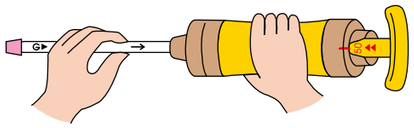
❷ そのまま検知管をたおし、検知管の先端を折り取ります。同様に反対側の先端も折り取ります。
※ チップホルダ内部にガラスくずが一杯にたまりましたらビニール袋などに移し、使用済み検知管と共に廃棄してください。



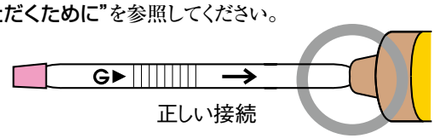
❸ **折り取った検知管の G▶マーク側の先端には必ずカバーゴムを取り付けます。**
酸素検知管31Eには青色のカバーゴム、それ以外の検知管には桃色のカバーゴムを取り付けます。



❹ ハンドルが押し込まれた状態で、検知管の「G▶マーク」と「⟶」の矢印が気体採取器を指す方向に向けて検知管取付口に差し込みます。



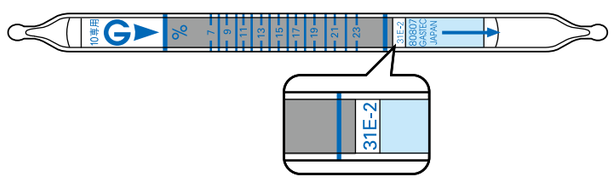
※検知管の向きを間違えたまま❺以降の手順を行った場合、測定ができません。
"安全にお使いいただくために"を参照してください。

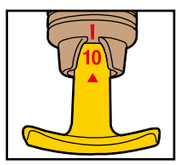


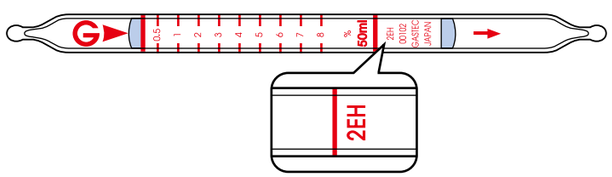
正しい接続

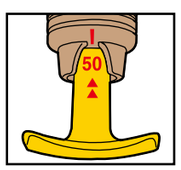
誤った接続

❺ ガイドマーク（赤線）とハンドルのガイドマークを合わせます。
ハンドルのガイドマークには「50▲▲」と「10▲」があります。酸素検知管31E-2は「10▲」のマークを、それ以外の検知管は「50▲▲」のマークを合わせます。



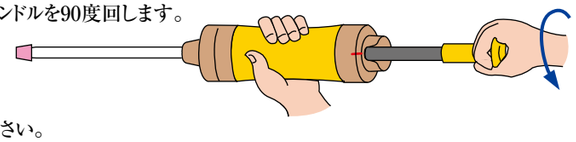






❻ **検知管を取り付ける向きを再度確認してください。**ガイドラインに沿ってハンドルを一気に最後まで引きます。
固定されますので、ハンドルから手を放し、**実験箇所から動かさずそのままの状態で約1分待ちます。**
（酸素検知管31E-2の場合は、約30秒待ちます。）
※約1分（31E-2の場合は、約30秒）かけて、ゆっくり吸引されています。

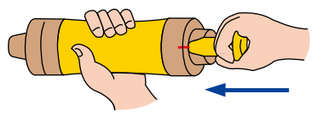
❼ ハンドルに指を掛けながらその位置で90度回して固定を解除します。
（この時ハンドルを引かないでください。）ハンドルが戻らなければ測定は終了です。
※ハンドルが戻る時は、測定が終了していないので、その位置からハンドルを90度回して元に戻し、ガイドラインに沿って、ハンドルを引きます。約10秒後に再びハンドルを90度回します。
ハンドルが戻らなければ測定は終了です。



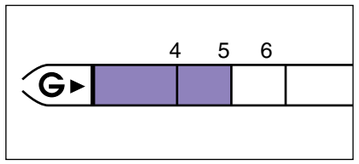
❽ 検知管を取り外し、目盛を読み取ります。"目盛の読み方"を参照してください。
※酸素検知管は測定直後、反応熱により熱くなっており、触れるとやけどをする恐れがあります。
"安全にお使いいただくために"を参照してください。

❾ カバーゴムを取り外します。取り外したカバーゴムは再利用ができます。
使用済み検知管は回収し、"ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず"として廃棄します。

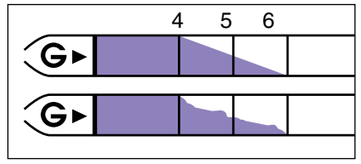
❿ 採取器のハンドルを押し込みます。



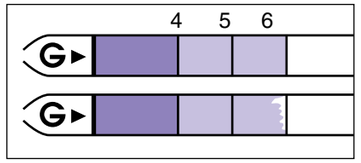
目盛の読み方



❶ 境界が平らに変色した場合、変色の先端を読み取り、測定値は5%



❷ 境界が斜めに変色した場合、長短の中間を読み取り、測定値は5%



❸ 境界が鮮明に変色しない場合、濃淡の中間を読み取り、測定値は5%